



## 地震の備えできていますか？

### 感震ブレーカーを設置しましょう



感震ブレーカーの  
詳細 (市 HP)

### 地震後、電気が通ったときの「通電火災」に注意！

地震時に発生する火災のひとつに「通電火災」があります。通電火災とは、停電から電気が復旧したときに起きる火災です。地震で、家具・家電が散乱し、布や紙などの燃えやすいものが暖房器具や調理器具に触れていたりすることで火災につながる場合があります。

### 感震ブレーカーを設置しましょう

通電火災に有効な対策の1つに感震ブレーカーの設置があります。感震ブレーカーは、大きな揺れを感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。家電量販店やホームセンターなどで販売されています。工事が必要なタイプは費用がかさみますが、性能は高くなります。手軽なコンセントタイプも含め、工事費や購入費用、取り付けの手間を比べながら、家に合ったものを選びましょう。

### 感震ブレーカーの種類

#### コンセントタイプ



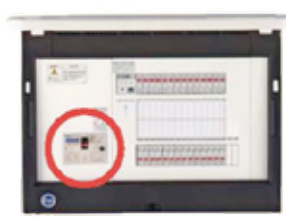
センサーが揺れを感知し、コンセントからの電気を遮断。電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある。  
(価格：約6,000円～2万円)

#### 簡易タイプ



ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。電気工事は不要。  
(価格：約3,000～4,000円)

#### 分電盤タイプ (内蔵型)



分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。電気工事が必要。  
(価格：約5～8万円 (標準的なもの))

#### 分電盤タイプ (後付け型)



分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。電気工事が必要。  
(価格：約2万円)

### 感震ブレーカー設置後の注意点

#### ①夜間の作動に備え「あかり」の用意を

夜間に作動すると足元が真っ暗になり、避難が遅れる恐れがあります。一般的な防災対策としても、停電時に自動で点灯する足元灯を設置したり、枕元に懐中電灯などを常備しておきましょう。

#### ③いざという時のために「定期的な点検」を

設置しても、いざという時に正しく動かなければ意味がありません。機器の劣化を防ぐためにも、メーカーが推奨するお手入れ方法などを確認し、定期的な作動テストを行いましょう。

#### ②電気を通す前には「安全確認」の徹底を

震災後にブレーカーを戻して電気を再開 (復電) させるときは、事前にガス漏れが起きていないか、倒れた電気製品や傷ついたコードがないかなどを確認してからブレーカーを戻しましょう。

#### ④医療機器があるご家庭は「停電対策」を

生命の維持に直結する医療機器を使用している場合は、ブレーカーの作動による予期せぬ停電への備えが不可欠です。万が一の時に機器が停止しないよう、予備バッテリーなどを必ず準備してください。